

基礎調査結果の総括1(現況、課題、対応方針)

| 環境区分 | 基礎調査結果 | | | | 問題点・課題 | 対応方針 | |
|---------|--|--|------------------|--|---|---|---|
| | 既存資料調査 | 自然環境調査 | 地球温暖化対策実行計画に係る調査 | 市民アンケート、事業者アンケート、ワークショップ | | | |
| 自然環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・宗像市は釣川の流域と離島などで形成される。 ・玄海国定公園、福岡県自然環境保全地域に指定された地区や、天然記念物が存在するなど、自然環境資源に恵まれている。 ・宗像市では、近年でも自然的土地利用から都市的土地利用への転換が進んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・里山など、かつて人為的に管理されていた場所の管理が行き届かず、動植物の生息環境に変化が見られる。 ・イノシシの被害増加とシカの周辺地域への侵入など、宗像市の自然環境を脅かすおそれのある事象が確認されている。 ・離島(沖ノ島、小屋島)へのドブネズミの侵入や、特定外来生物アライグマなどによる、生態系の攪乱が懸念される。 ・南方系の昆虫の侵入が新たに確認されるなど、地球温暖化の影響が見られる。 ・メガソーラー設置のための開発が丘陵地を中心に進んでおり、生態系などへの影響が懸念されている。 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「自然景観の美しさ」に不満を感じる原因として“立ち枯れや竹林の繁茂”が最も多い。(市民) ・「野鳥や昆虫等とのふれあい」に不満を感じる原因として“野鳥や昆虫等が少なくなった”が最も多い。(市民) ・「生物多様性」の認知度は低く、6割を超える人が知らないと答えている。(市民) ・生物多様性に関する環境保全行動として、自然保護団体活動への援助や活動への参加が少ない。(市民) ・宗像には豊かな自然環境が残るが管理の担い手の高齢化に伴い、管理が行き届かない地域も存在する。継続して実施している水辺教室等、自然とふれ合う機会を通じて自然への興味関心、愛着を育て、子どもから親、地域の人たちが山や川、海など自然の中へ入るきっかけづくりをすることで豊かな環境が地域の財産であることを周知し、地域で管理する体制をつくる。また宗像は山の源流が海に流れており、山・川、海が一つの繋がった環境であるため、各地域だけでなく市民が一体となって環境保全に取り組む必要がある。(WS) | <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全には、源流から河口まで、釣川流域の連続性を考慮した一体的な取り組みが必要である。(山と海をつなぐ仕組みづくり) ・里地・里山など、定期的な人為管理 ・鳥獣被害の増加 ・外来生物の侵入 ・「生物多様性」の認知度の低さ ・自然とのふれあいの減少 ・竹林と荒廃森林の拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・開発事業(特にメガソーラー設置事業)に関する環境面からの助言・指導 ・里地・里山の管理のための人材育成 ・有害鳥獣の管理体制への支援 ・外来生物に関する関係機関との連携構築 ・竹の利用促進 | |
| 生活環境 | 大気汚染、悪臭 | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「空気のきれいさ」に不満を感じる原因として“PM2.5”が最も多い。(市民) | — | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携強化 ・注意喚起等、緊急時の情報発信方法の見直し | |
| | 騒音・振動 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境基準、要請限度等を概ね達成している。 | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「周辺の静けさ」に不満を感じる原因として“自動車・オートバイなどからの交通騒音”が最も多い。(市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・自動車等の道路交通騒音の発生。 ・法律や条例で規制の出来ない日常生活に伴う騒音問題が発生。 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携強化 |
| | 水質汚濁 | <ul style="list-style-type: none"> ・釣川の水質は概ね環境基準を達成している。 | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「川や池、海の水のきれいさ」に不満を感じる原因として“川、池、海に浮かんでいるゴミや雑草”が最も多い。(市民) ・「水や水辺とのふれあい」に不満を感じる原因として“水が汚れたり、水辺が汚くなっている”が最も多い。(市民) | — | <ul style="list-style-type: none"> ・イベントやボランティアによる清掃活動の支援 ・水環境をきれいにする啓発を行う。 |
| | ごみ | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭系ごみの1人1日あたりの処理量は930g(平成25年度)で、ほぼ横ばいで推移している。 ・事業系ごみの排出量は増加傾向にある。 | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「ポイ捨てなどの散乱ごみ」に不満を感じる原因として“空き缶やタバコのポイ捨てが多い”、“ごみの散乱や雑草が多く汚い”等が多い。(市民) ・レジ袋削減、環境にやさしい製品の開発販売、地産地消等の実施率が低い。(事業者) | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの不法投棄 ・事業系ごみの増加 | <ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄監視体制の強化 ・ごみの減量化方法の検討 ・バイオマス利用の検討 |
| ペット(犬猫) | — | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「ペットの飼い方のマナー」に不満を感じる原因として“ペットの糞尿の後始末をしていない姿を見かける”、“犬猫の糞尿で困っている”が多い(市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・ペットの不適正な飼育 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペットの飼い方の啓発 | |
| 快適環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民一人あたりの都市公園の整備面積は15.1㎡(平成25年度現在)で、福岡県(政令市は除く)の8.9㎡と比べて高い水準にある。 | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「緑(樹木、草花)とのふれあい」に不満を感じる原因として“沿道や公園等の緑や花の手入れが悪い”が最も多い。(市民) ・「まちなみ景観の美しさ」に不満を感じる原因として“古く、活気のない商店街が多い”、“空き家が多く、住宅の管理が行き届いていない”等が多い。(市民) ・「公園や野外レクリエーション地の充実」に不満を感じる原因として“遊具、トイレ等の施設が整備されていない”、“ごみの散乱や雑草が多く汚い”等が多い。(市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・管理不十分な空き家の増加 ・公園等施設の維持管理体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家等に関する現状の把握と空き家バンク等の活用 ・公園の遊具・トイレ等の施設整備 ・アダプトプログラム等を活用した公園の維持管理の検討 | |

| 環境区分 | 基礎調査結果 | | | | 問題点・課題 | 対応方針 |
|---------|---|--------|---|---|--|--|
| | 既存資料調査 | 自然環境調査 | 地球温暖化対策実行計画に係る調査 | 市民アンケート、事業者アンケート、ワークショップ | | |
| 歴史文化的環境 | ・本市には64件(平成27年現在)の指定文化財のほか、世界文化遺産の候補地もある。これらは本市の文化的シンボルであるとともに、重要な観光資源となっている。 | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「文化財、遺跡等の保存・整備状況」に不満を感じる原因として“文化財、遺跡等の場所が分からない”が最も多い。(市民) ・「歴史や伝統に関するまちの雰囲気」に不満を感じる原因として“まちなみに歴史的雰囲気が感じられない”が最も多い。(市民) | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化的資源を活かしたまちづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・生活空間と隣り合わせの歴史文化的資源の活用 ・文化財・遺跡等の所在地のサイン整備 |
| 低炭素社会 | ・宗像市における再生可能エネルギー設備等の導入は、太陽光発電に関するものが中心となっている。 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化が進行しており、各分野(農林水産業、水環境・水資源、自然生態系、自然災害・沿岸域、健康、産業・経済活動、国民生活・都市生活)で様々な影響が懸念されている。 ・業務部門、自動車部門、家庭部門で二酸化炭素排出量の8割を占めている。 ・2013年度の市民1人あたりの二酸化炭素排出量は目標値を達成していない。 ・現状以上の対策を実施しない場合、2030年度には2013年度比で5%の増加となる見通しである。 | <ul style="list-style-type: none"> ・施策の満足度が低く重要度が高い取り組みに「省エネルギー対策等の地球温暖化対策」、「再生可能エネルギー活用の促進」が挙げられる。(市民) ・新たな助成制度として、省エネ型給湯器、次世代自動車等に関するものが多く求められている。(市民) ・家庭でのエネルギー使用は、今後努力すれば少しは減らせそうという人が多い。(市民) ・省エネルギーや新エネルギー設備の導入は、LED照明以外の導入意向は低い。(市民) ・ノーマイカーデー、公共交通機関の利用、カーシェアリング、ノー残業デー、アイドリングストップ、雨水利用等の実施率が低い。(事業者) ・省エネルギーや新エネルギー設備の導入は、LED照明、人感センサー付器具等の導入以外の導入率は低い。導入に必要な条件に価格の引き下げ、補助金・融資制度を求める意見が多い。(事業者) | <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化影響への適応策 ・業務部門、自動車部門、家庭部門での地球温暖化対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化適応策の推進(防災対策、水の有効利用、生態系に配慮した都市づくり、熱中症・感染症対策、農作物の高温障害対策 など) ・省エネルギー、再生可能エネルギー設備の導入 ・建築物の省エネ化 ・省エネルギー行動の啓発 |
| 教育・協働 | — | — | — | <ul style="list-style-type: none"> ・「環境の保全や創造のための行動について」、市民活動や環境保全活動への参加も実行率が低い。(市民) ・市民への環境教育(WS) ・地域で活動する環境リーダーの育成(WS) | <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の指導者不足 ・環境団体構成員の高齢化 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動の推進 ・環境教育の推進 ・環境リーダー等の育成 ・地元企業への呼びかけ |

※意向調査項目の()は、以下の調査結果であることを示す。

- ・市民： 市民アンケート
- ・事業者： 事業者アンケート
- ・WS： ワークショップ